

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.255 2021年12月28日発行

## 巻頭説教 「マッチ売りの少女からクリスマスを考える」 牧師 横山厚志

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。(ルカ 2:6~7)

アンデルセンの書いた「マッチ売りの少女」の物語があります。多くの人知っている名作です。とても悲しい内容になっています。大晦日の夜、雪が降る夕方、マッチ売りの少女が町の通りに出て、通る人々に持っているマッチを売ろうとします。「マッチはいかが、マッチはいかが、よく燃えるマッチですよ」と人々に声をかけますが、誰も振り向きもせず、足早に通り過ぎていきます。誰も、少女の持っているマッチを買う人はいませんでした。少女はマッチを売り切らなければ家に帰ることができなかつたのです。怖いお父さんに殴られるからです。そして、家に入れてもらえることはないことが分かっていました。マッチ売りの少女は、裸足で雪の中を歩いていました。家の窓からは人々の賑やかで楽しそうな声がします。少女はマッチを売るのを諦めたのか、持っていたマッチをこすって火をつけます。マッチをつけるたびに、素晴らしいごちそうや、温かいストーブ、大きなクリスマスツリーなどが現れて来ます。しかし、マッチの火が消えるとそれらも消えてしまいます。最後には大好きな亡くなったおばあちゃんが出てきます。少女は「おばあちゃん、私を置いていかないで、一緒に連れて行って」と叫びながら、おばあちゃんと一緒に天に上って行くのです。お正月の朝、少女は、教会の前で冷たくなっていました。誰も知られず、1人孤独に死んでいったのです。

1人の少女が、誰からも見向きもされず、冷たくなって死んでしまった。この世界でいったい、どれだけの人々が、誰からも見向きもされず、孤独を感じて生きていて、そして、虐待されて殺されてしまっているのでしょうか。このマッチ売りの少女と比べれば、自分は幸せなのかと思います。それでも、辛い時がありました。自分が高校3年生の時に、友人の自殺がきっか

けで、学校に行くことができなくなり、自分の家の部屋に閉じこもっていた時がありました。自分の人生の中で最も辛い時でした。暗闇の中にいて、死ぬことばかりを考えていました。それは、この暗闇から、この苦しみから抜け出したいと思いだっただけだと思います。死ぬことによって、もう苦しむことはないと考えていたのでしょうか。それから、いろいろなことがあって、神の導きがあって、今日まで歩むことができています。神に感謝です。

クリスマスは、イエス様の誕生日です。今では世界中の人々が祝います。最初のクリスマスは、父ヨセフと母マリアは、ガリラヤのナザレから、ユダヤのベツレヘムにやってきました。マリアは身重でした。お腹には新しい命を宿していたのです。神の子であるイエス様は、すべての人々の罪を救うために、十字架につくために、生まれて来ました。その誕生は、いかにも寂しいです。普通の人々が生活している家ではなくて、宿屋ではなくて、家畜がいる家畜小屋でした。クリスマス物語では、羊飼いや東方の博士たちの来訪もありました。それでも、家畜小屋で、3人だけで過ごしていました。ルカは、クリスマスを「宿屋には彼らの泊まる場所はなかったからである」と書いています。神の子が宿屋ではなく、家畜小屋に生まれたことは、マッチ売りの少女のように、誰からも必要とされず、誰からも知られず、静かに苦しみながら死んでいった人の所に来てくださったのです。

もちろん、神の子の誕生は、すべての人々の罪の救いのためです。クリスマスに大勢で集まり、クリスマスを祝うこともいいでしょう。でも、クリスマスの意味を考える時に、神の子が宿屋ではなく、家畜小屋に生まれたことの意味を考えていきたいと思います。



母が亡くなってから、母の書き留めた日記のようなものを読むことになりました。そこには、感謝の言葉があふれていました。あんなに辛かったのに、あんなに涙していたのに、誰かを恨むのではなく、怒りをぶつけるのではなく、最後は

感謝の言葉で締めくくられているのです。

「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでも・・・わたしは知った人間にとって最も幸福なのは喜び楽しんで一生を送ることだ、と」コヘレト 3：11～12

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」テサロニケ第一 5：16～18

母は引っ越しの人生でした。流浪の民でした。私が生まれてからも7回の引っ越しをしてこの世を去りました。そのたびごとに母を支えてくださる方がみえ、その環境の中でその周りの人々に感謝しながら歩んできたのだと思います。父も母もよく口にしていたこのみ言葉を、心から口にすることができるようになりたいと思います。

最後また一人暮らしを始めた母は、次の聖句に生きたと思います。老いることを認めながらも、愛に生きようとしていた母の姿が偲ばれます。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを偲び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」コリント第一 13：4～6

母の聖書に線が引かれていた部分の一つです。母は、聖書の言葉に聞き、文字を書くことで祈っていたのでしょう。

今の私にとって祈ることが一番難しい。いつになったら本当に祈れるようになるのかを、自問自答し、時々笑っている母の顔を見ながらすごしていきたいと思います。Kさん、笑顔がありがとう。

教会は神の家族と言われますが、K姉はまるで実の娘か孫のように私を気にかけてくださいました。O市に引っ越されてからは、度々私の職場でも顔を出してくださいました。

私がいつまでも独り身であることを長年心配してくださり、ようやく結婚した時にはことのほか喜んでくださって、温かな思いやりに満ちた小さな贈り物をいくつも用意してくださっていました。それをお渡しいただく前に、ふいに御許に引き上げられてしまうなんて。でも、とてもK姉らしい、自由で軽やかな去り際だったと感嘆しました。I・A長老のご一家が、まるで親戚の一人であるかのように声をかけてくださるため、K姉の御夫君であるN兄が病床にあるときにも見舞わせていただきましたが、先の見えない看取り期の日々にも常に神様に祈っておられた姿を覚えております。その時のつらさや大変さをご家族に負わせたくないというお気持ちを実現されたかのようにでした。

先日、十字ヶ丘復活苑での納骨式に立ち会うことができました。明るい光に照らされ、家族と教会員が讃美歌を歌う中、N兄と並んだ骨壺は、復活の時を待つ希望をとても強く証していました。A姉、A姉、K兄へと引き継がれていく信仰と温かい思いやりの心に、K姉が確かにこの地上に神の愛を証して行かれたと感じました。また会う日まで、K姉の背中を追いかけて歩んで行きたいと思います。その日まで、待っていてくださいね。



## 瀬戸永泉教会研修会報告

### 礼拝堂改修後の永泉教会について語り合う

#### K・R長老

10月24日 第3回目の礼拝後、パーティ瀬戸5階アリーナにて感染対策しながらの開催、20名の方の参加でした。初めに横山牧師によって教会改修作業、母子、事務室の解体作業の状況をスライドと動画を交えて進捗状況の説明がありました。その後、M長老と私の発題があり、改修後の教会建物の利用方法、活用方法、伝道について3つのグループに分かれて話し合いが持たれました。その後、各グループの代表者が話し合い内容を発表しました。

・近隣住民も教会に入ったことがない方が多いので改めてお披露目が出来たらいいのではないかと、市役所主催で行われた見学会にも沢山の来客が来てくれたから建築に興味のある方をお招きする見学会の開催、ダイレクトメールばかりではなく、InstagramなどのSNSやインターネットのホームページなどで紹介、定期更新をこまめにやったらどうか、近所の高齢者のお話しできるサロンや子供の遊び場、瀬戸物祭りや招き猫まつりなどのイベントの休憩所として開放したらどうか、災害の避難所として活用してもらったらどうか、避難訓練もおこなったら……。結婚式や葬儀、経済的に苦しい方のために使用できるようにしたら？ SNSの動画配信でアピールも……。

様々な意見、アイデアが出てきました。また新しい方を迎えるために教会員がどうあるべきか、自分たちの喜びがないと広がって行かないのでは？ 信徒一人一人が神様に養われるために礼拝を重んじ、信徒同士の交わりも大切にしなければならない。というそれぞれの信仰を養うことの意味も……。

最後に建築委員長の太田長老から一言。教会増改築は資金的にも皆が協力してくださり、祈りと献金に感謝します。神様の御力でここまですすめることができ、来年2月の完成は大きな喜びですと……。コロナ禍のため、なかなか集まって話し合い出来ない状況でした。教会外ではありますが、広い会場で久しぶりに皆が集まって話し合いを持つことが出来ました事、本当に感謝です。



## 聖書豆知識

### クリスマスを祝う

小椋 実央牧師

クリスマスといえばキリスト教祝祭日の花形だが、その成立過程はイースターにだいぶ遅れを取っている。主イエスがご復活されたことを記念して週のはじめの日毎に信者たちが集まり、いわば毎週が小さなイースターのようにあったのに対して、主イエスの誕生を祝い始めたのは4世紀以降のことである。

元々ローマ帝国では12月25日を太陽神の祭として祝う習慣があり、この日をキリスト教化するために同じ日を選んで主イエスの誕生を祝うことになったという仮説が一般的である。また当時「子なるキリストは父なる神に劣る」と唱えるアレイオス主義に対して、主イエスの誕生を祝うことは「キリストは神であり、人である」ことを主張し、異端をしりぞける闘いでもあった。

なんともきな臭い成立過程ではあるが、その当初から伝道的使命を持ってクリスマスが祝われてきたことを思う時、やはり今年のクリスマスも1人でも多くの方を招きたいと心から願うものである。

## クリスマスの思い出

2018年、夏のクリスマス

I・A姉

日本にいと、世間のクリスマスと教会でのクリスマスとの間にギャップを感じる事が多くあります。国民のほぼ半数がキリスト教徒のニュージーランドでは、もちろん国民的な大行事。12月に入る頃から街はクリスマス一色です。日本と同じようにクリスマス商戦があり、街がツリーやリース、赤と緑の装飾に彩られます。道端では生のモミの木が売られ、家ではプレゼントをラッピングし、クリスマス当日を迎えます。

わたしがしばらく通っていた教会では、永泉教会と同様にクワイアが結成され、キャロルが歌われます。毎週の礼拝後に誰でもウェルカム of 聖歌隊に、わたしも参加させてもらいました。曲目は慣れ親しんだ「もろびとこぞりて」や「きよしこのよる」など。もちろん歌詞は英語ですが、指導してくださる方の内容は一緒でした。「喜びの表情で」「他のパートの声を聴いて」世界中どこにいても、クリスマス・イエス様の誕生は、わたしたちの喜びの時であるのだと感じたひと時でした。

クリスマス当日は家族で過ごす人たちがほとんど。飲食店もお休み。わたしのような一人で来ている留学生たちは、みんなで集まり、持ち寄りのクリスマスパーティーでした。テーブルの上には鶏の丸焼き、巻き寿司、揚げ餃子、ピンチョス、アヒージョ etc 色んな国の料理が並び、なんだか教会での愛餐会を思い出し、遠く離れた地でしたが、何時もと同じように心温まるクリスマスでした。



## 今後の予定

12/4 (土) CS学童向けクリスマス  
13:30~15:00

12/12 (日) ライアコンサート  
11:15~ 12:45~宮之原光枝さん他

12/19 (日) クリスマス礼拝・聖餐式  
9:00~ 10:30~ 12:00~  
祝会 キャロリング CSクリスマス

12/24 (金)「瀬戸永泉教会・クリスマスイブの集い」(聖夜礼拝) 於; パルティ瀬戸  
19:00~

1/2 (日) 礼拝 (兼元旦礼拝)・聖餐式  
9:00~ 10:30~ 12:00~



### ＝編集後記＝

クリスマスおめでとうございます。緊急事態も解除され、新型コロナウイルスの感染だいぶ少なくなってきました。このまま、終息を迎えて欲しいものです。教会増改築は日に日に進められており、完成が楽しみです。主なる神様の光はいつも私たちにあり、希望は決して失われません。神様の永遠の光を照らす者として日々生かされていきたいものです。御子のご降誕を心からお喜び申し上げます。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございました。アーメン

K・R

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5

電話、FAX: 0561-82-2314

ホームページ: [瀬戸永泉教会](#)で検索または⇒

